

さいたま市防災カルテ

南浦和中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

【位置】南区の南部に位置している。
 【土地利用】学区内には住宅地が広がっており、南西部に団地がある。
 【交通】学区の南部には東京外環自動車道が、中央部に国道17号、東部には東北本線、西部にはJR埼京線が走っている。

◆学区の位置



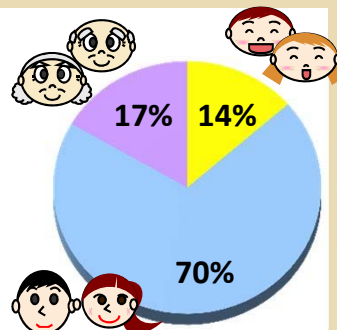
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.3)	6弱 (5.8)	6強 (6.1)			
最小震度	6強 (6.0)	5強 (5.4)	6弱 (5.6)			
死者	26人 (0.1%)	1人 (0.0%)	8人 (0.0%)			
負傷者	154人 (0.5%)	23人 (0.1%)	79人 (0.3%)			
避難者	5,378人 (18.4%)	279人 (1.0%)	2,105人 (7.2%)			
全壊建物棟数	978棟 (17.5%)	45棟 (0.8%)	392棟 (7.0%)			
うち焼失棟数	428棟 (7.6%)	28棟 (0.5%)	213棟 (3.8%)			
半壊建物棟数	1,214棟 (21.7%)	238棟 (4.3%)	1,090棟 (19.5%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	5,436棟	0棟	0棟	26棟	0棟	64棟
床下浸水建物棟数	161棟	0棟	0棟	1,126棟	0棟	467棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	南浦和中学校区	全市平均
総人口	29,171人	
0-14歳	3,949人 (14%)	(14%)
15-64歳	20,381人 (70%)	(67%)
65歳以上	4,842人 (17%)	(19%)
人口密度	14,146人/km ²	5,766人/km ²



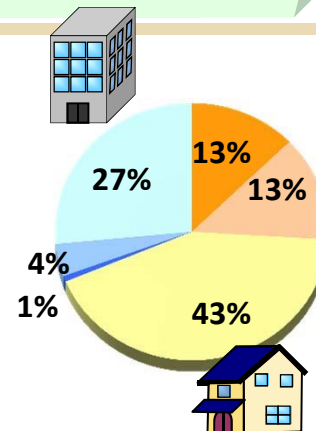
【地震】さいたま市直下地震の震度が最も大きくなっており、**地区の約40%が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の10%弱にあたる建物は焼失**する恐れがある。

【水害】荒川が氾濫した場合、**全ての建物が浸水被害**を受ける。

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、**人口密度は高い**。

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	南浦和中学校区	全市平均
総建物棟数	5,597棟	
木造(昭和46年以前)	709棟 (13%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	744棟 (13%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	2,391棟 (43%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	40棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	229棟 (4%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,484棟 (27%)	(21%)



◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	南浦和中学校、文蔵小学校、辻小学校、辻南小学校、市立浦和南高等学校、文蔵公民館、六辻公民館
一時・広域避難場所	
市・区役所等窓口	
消防署・出張所	南消防署
警察署・交番	六辻交番
救急病院	
応急給水場所	南浦和中学校、文蔵小学校

◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【耐震化】多くの建物被害が想定されているため、**耐震化率の向上が必要**。
- 【水害】水害の危険性が高い地区となっており、迅速な情報伝達体制や、自主防災組織等による**安全な避難体制の構築が必要**。
- 【避難】人口密度が高い地域のため、**円滑な避難誘導の実施が必要**。

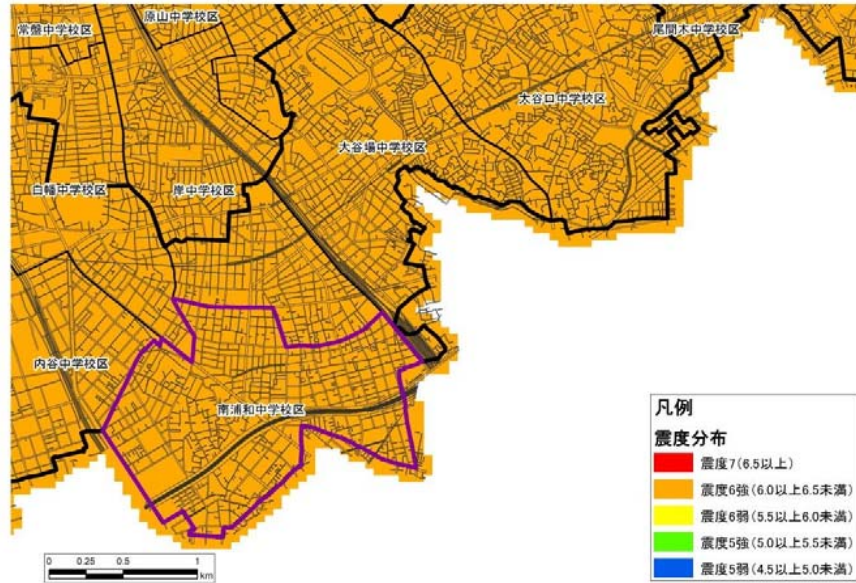
全市平均と比較すると、**非木造の建物の割合が大きい**。

本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話してみましょう。

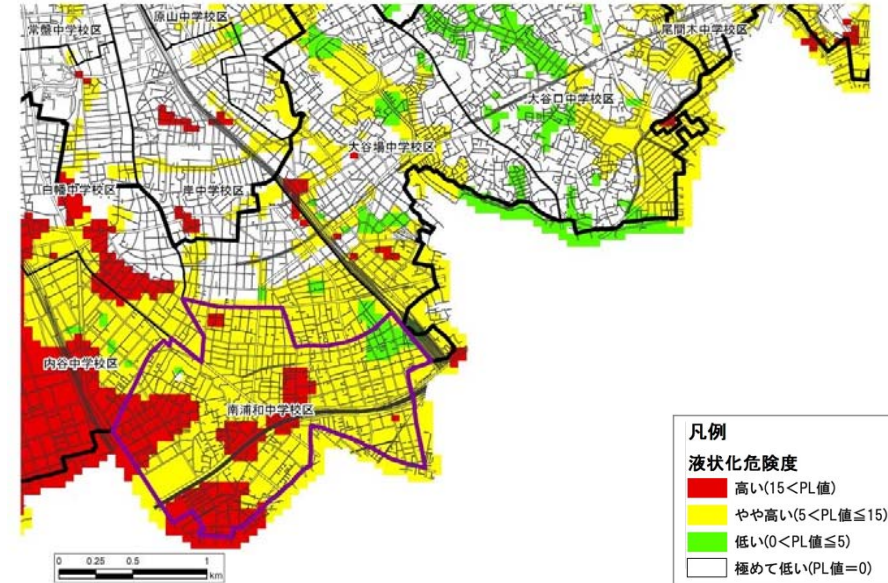
②さいたま市直下地震の想定 さいたま市防災カルテ

南浦和中学校区

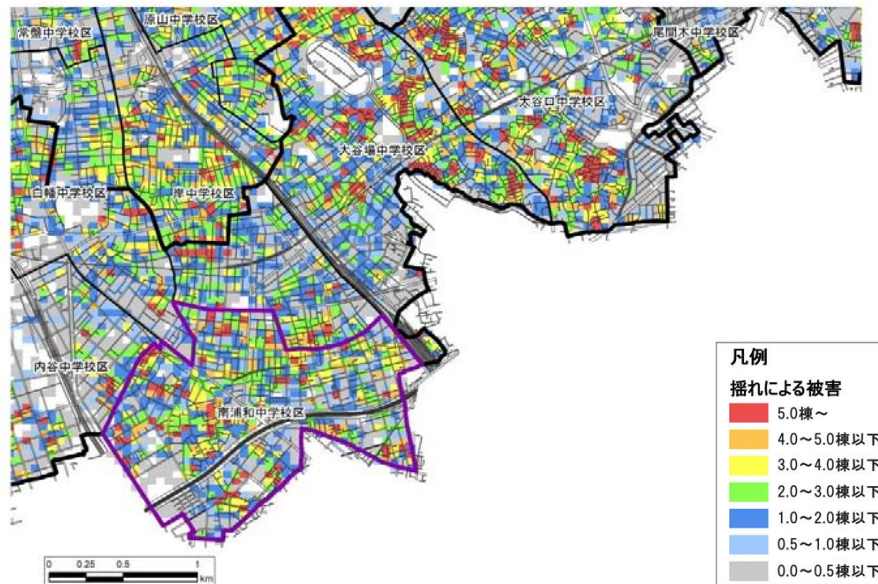
震度分布図



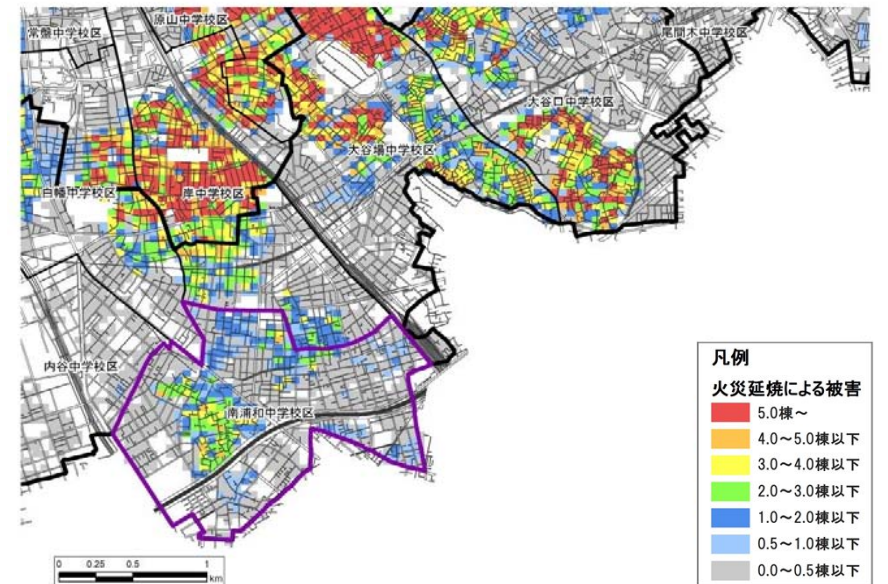
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



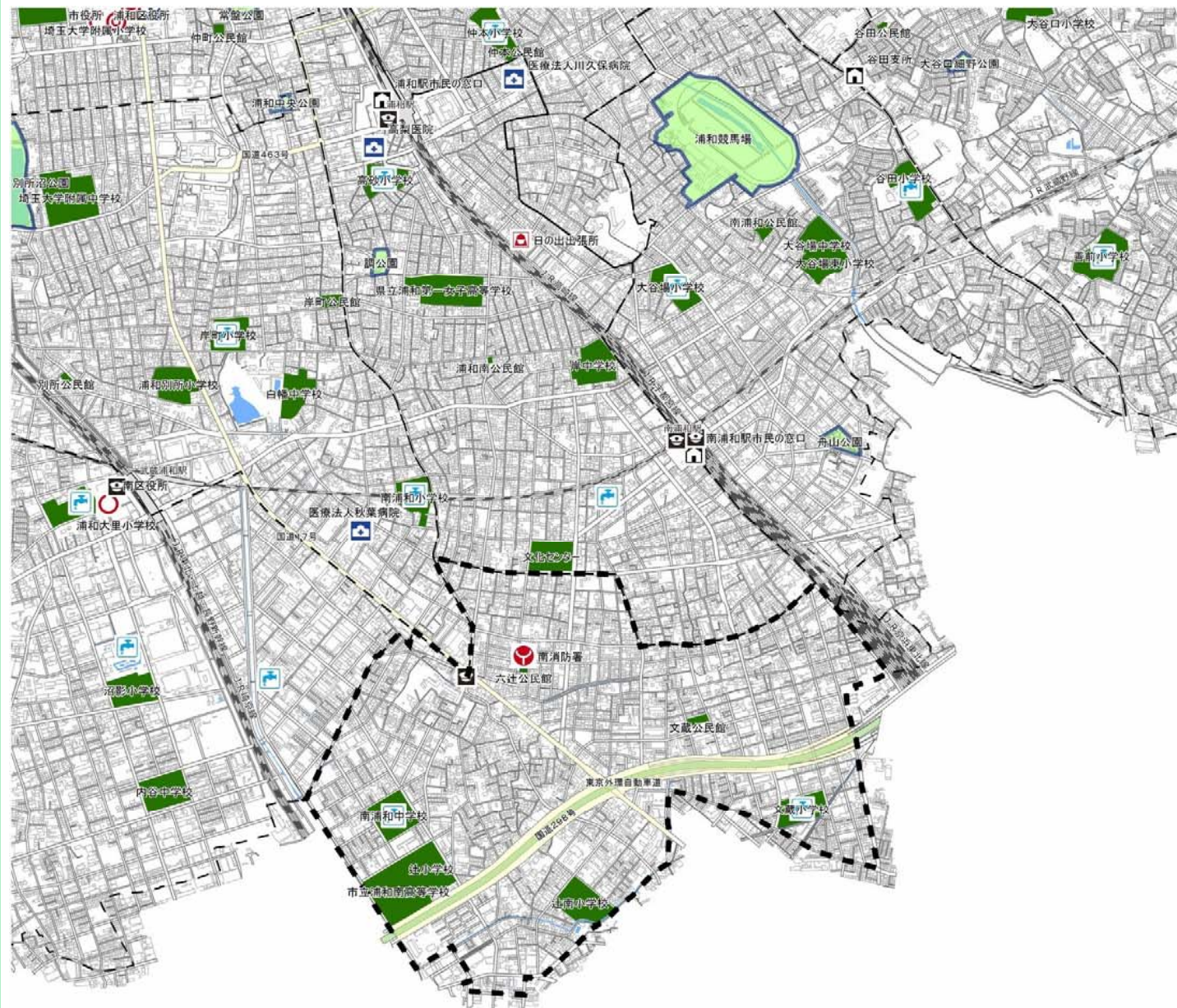
建物被害分布図（火災延焼による被害）



③防災マップ

さいたま市防災カルテ

南浦和中学校区



(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

